

このたび、ご縁をいただき、兵庫県立芦屋国際中等教育学校第11代校長に就任しました、川崎芳徳（かわさきよしのり）と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。



本校は、平成15年（2003）4月に開校以来、「RESPECT（尊敬）、INTEGRATION（融和）、CONTRIBUTION（貢献）」の校訓のもと、中高一貫教育を展開する中等教育学校として、これまで、約1200人にのぼる有為な人材を育ててまいりました。

創設以来、日本語や日本文化への理解が不十分な外国人生徒、海外から帰国した生徒、留学や海外での生活等を目指す生徒たちが集い、6年間というゆとりのある教育計画の中で共に学んでいます。創立21年目を迎えた令和5年度は、6学年12クラス、約480人の生徒が学んでまいります。

さて、変化激しく予測困難なグローバル社会を生きる今、教育に求められていることは何なのかを考えさせられます。教育基本法第1条には「教育の目的」が明記されており、「教育は、『人格の完成』を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」とあります。そして、第2条には、その目的達成のために、5つの「教育の目標」が示されています。目的は、まさに到達したい「まと」であり、目標は、その「まと」に達するための「しるべ」です。

日々の様々な教育活動において、多面的なアプローチから到達したい「まと」は、人類の未来を担っている生徒たちの「人格の完成」であります。

どれだけ時代が変わっても、「人」が「人」として生きていく上で大切なことは不変です。しかし、また、社会の変化に柔軟に対応し、変えていく必要があることもあります。

生徒たちが、将来、自己実現を図りながら、この変化激しい社会を、生き生きとたくましく生きていく資質や能力を育むためには、これら「不易」と「流行」を見極めつつ、教育を進めていく必要があると考えています。

生徒たちの「人格の完成」に携わる私たち職員は、同時に、自らの人格の向上を常に心がけ、信念、情熱、愛情、そして教育者としてのプロ意識を持ち、一丸となって教育活動に邁進してまいります。

どうぞ、今後とも保護者や地域の皆様方の一層のご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。